

船山泰範教授

主要業績



## 船山泰範教授 主要業績

### 【著書】

#### 単著

- 『ポイント整理 刑法入門』（住宅新報社、一九七八年）
- 『人間の目で見える刑法（改訂版）』（こぶし社、一九九七年）
- 『刑法』（弘文堂、一九九九年）
- 『刑法の役割と過失犯論（日本大学法学部叢書23巻）』（北樹出版、二〇〇七年）
- 『事例で学ぶ刑法各論』（成文堂、二〇〇八年）
- 『図解雑学・刑法（第三版）』（ナツメ社、二〇一〇年）
- 『マスター刑法』（立花書房、二〇一〇年）
- 『刑法がわかった』（法学書院、二〇一〇年）
- 『刑法学講話（総論）』（成文堂、二〇一〇年）
- 『刑法の礎・総論』（法律文化社、二〇一四年）
- 『刑法の礎・各論』（法律文化社、二〇一六年）

『刑法を学ぶための道案内』（法学書院、二〇一六年）

共著

『刑法の入門』（高文堂出版社、一九七九年）

『判例ゼミ刑法各論』（学陽書房、一九八〇年）

『基本マスター刑事訴訟法』（法学書院、一九八〇年）

『企業犯罪・ビジネス犯罪』（有斐閣、一九八一年）

『判例ゼミ刑法総論（改訂版）』（学陽書房、一九八二年）

『少年法（条文解説）』（有斐閣、一九八六年）

『法学概論』（二橋出版、一九八七年）

『論文試験刑法総論』（学陽書房、一九九二年）

『論文試験刑法各論』（学陽書房、一九九三年）

『刑法Ⅱ「各論」』（別冊法学セミナー一二四号、一九九四年）

『知的作文の技法』（翰林書房、一九九五年）

『新刑事政策入門』（青林書院、一九九五年）

『法学概論』（青林書院、一九九六年）

『スタッフ刑法総論』（こぶし社、一九九七年）

- 『スタッフ刑法各論』（こぶし社、一九九七年）
- 『現代刑事法入門』（東京法令出版、一九九七年）
- 『ビジネス刑法入門』（システムファイブ、一九九七年）
- 『目で見る刑法教材』（有斐閣、一九九七年）
- 『基本法コンメンタール〔第二版〕改正刑法』（日本評論社、一九九九年）
- 『スタッフ刑事政策』（こぶし社、二〇〇〇年）
- 『演習ノート刑事訴訟法〔全訂第二版〕』（法学書院、二〇〇二年）
- 『ケースメソッド刑法総論』（不磨書房、二〇〇三年）
- 『ケースメソッド刑法各論』（不磨書房、二〇〇三年）
- 『裁判員のための刑法入門』（ミネルヴァ書房、二〇〇八年）
- 『裁判員のための法律用語&面白ゼミナール』（法学書院、二〇〇八年）
- 『図解雑学・裁判員法』（ナツメ社、二〇〇八年）
- 『ホーンブック新刑法総論（改訂版）』（北樹出版、二〇一〇年）
- 『法律用語辞典』（法学書院、二〇一〇年）
- 『刑法演習50選』（北樹出版、二〇一二年）
- 『新法学入門（第二版）』（弘文堂、二〇一二年）
- 『刑事訴訟法』（弘文堂、二〇一二年）

『演習ノート刑法総論（第五版）』（法学書院、二〇一三年）

『刑事法入門』（弘文堂、二〇一四年）

『不正競争防止法コンメンタール（改訂版）』（レクシスネクシス・ジャパン、二〇一四年）

『ホーンブック新刑法各論（改訂三版）』（北樹出版、二〇一五年）

『福島原発、裁かれないでいいのか』（朝日新聞出版、二〇一五年）

『商標法コンメンタール』（レクシスネクシス・ジャパン、二〇一五年）

『法学』（日本大学通信教育部、二〇一六年）

『刑法判例ベーシック150』（法学書院、二〇一六年）

## 補訂

藤木英雄『刑法（全）（第四版）』（有斐閣、二〇一三年）

## 【学術論文】

「刑事政策への市民参加―地域非行防止活動の展望」日本法学四〇巻一号（一九七四年）

「公害紛争と刑事裁判」藤木編『公害犯罪と企業責任』（一九七五年）

「刑事政策観の転換―市民参加を中心に」団藤他編『刑事政策の現代的課題』（小川太郎博士古稀祝賀）（一九七七年）

- 「行政犯と行政刑法」現代刑法講座第一卷刑法の基礎理論（一九七七年）
- 「公電漏えい事件・資料 最高裁決定と一審・二審判決の争点」新聞研究三二五号（一九七八年）
- 「公害犯罪と刑事責任―水俣病刑事裁判・熊本地判昭和54・3・22」法学セミナー二九九号（一九八〇年）
- 「過失の性質・種類」『判例刑法研究（三）責任』（一九八〇年）
- 「商品生産と犯罪」『現代刑罰法大系第二卷経済活動と刑罰』（一九八三年）
- 「少年法（日本刑法学会第六〇回大会）ワークショップ」刑法雑誌二六卷一号（一九八四年）
- 「青少年保護条例における淫行処罰規定の意義と罪刑法定主義―福岡県青少年保護条例の最高裁大法廷判決をめぐって」日本法学五二卷二号（一九八六年）
- 「誤想防衛の一考察―誤解による騎士道發揮事件の最高裁決定をめぐって」日本法学五四卷二号（一九八六年）
- 「刑法における行為の人間学的構造」日本大学法学部創立百周年記念論文集第一卷（一九八九年）
- 「修正申告の強要はいかなる犯罪を構成するか」法と民主主義二四六号（一九九〇年）
- 「テレホンカードの偽造と罪刑法定主義」日本法学五七卷一号（一九九一年）
- 「修正申告の強要にたいする刑事法的規制」板倉他編『納税者の権利』（北野弘久教授還暦記念論文集）（一九九一年）
- 「間接幫助」刑法判例百選Ⅰ（第三版）（一九九一年）
- 「幫助犯と罪刑法定主義」日本法学五七卷四号（一九九二年）
- 「情報の不正入手と背任罪―総合コンピューター事件」刑法判例百選Ⅱ（第三版）（一九九二年）

- 「間接教唆・間接幫助」刑法基本講座第四卷（一九九二年）
- 「少年犯罪」「報道」の視座―少年法五一条をてがかりに」政経研究二九卷二号（一九九三年）
- 「人間行為の責任と社会制裁」桜文論叢三六卷（一九九三年）
- 「刑法における暴行・脅迫の意義」刑法基本講座第六卷（一九九三年）
- 「公務執行妨害罪の問題点」刑法基本講座第六卷（一九九三年）
- 「児童福祉法六〇条三項の『児童を使用する者』の意義」平成五年度重要判例解説（一九九四年）
- 「情報の不正入手と背任罪―綜合コンピュータ事件」刑法判例百選Ⅱ（第四版）（一九九七年）
- 「間接幫助」刑法判例百選Ⅰ（第四版）（一九九七年）
- 「部分冤罪と再審請求」法学紀要四〇号（一九九九年）
- 「三浦裁判 勾留13年でも再収監の意地悪」週刊金曜日四〇号（一九九八年）
- 「新旧過失犯論争の総括―新過失論の立場から」現代刑事法二号（二〇〇〇年）
- 「期待可能性」刑法の争点〔第三版〕（二〇〇〇年）
- 「薬害エイズと過失犯」現代刑事法四号（二〇〇二年）
- 「死刑存廢論の未検討課題」『三原憲三先生古稀祝賀論文集』（二〇〇二年）
- 「座談会 学生をめぐる今日的な問題―その法的な対処について考える」看護教育四四号（二〇〇三年）
- 「刑事司法の制度的限界と克服」廣瀬他編『田宮裕博士追悼論集（下巻）』（二〇〇三年）
- 「少年の責任と少年法」渥美他編『刑事法学の現実と展開―齊藤誠二先生古稀記念―』（二〇〇三年）

- 「事後強盜罪の成否」刑法判例百選Ⅱ（第五版）（二〇〇三年）
- 「共犯と過剰防衛」刑法判例百選Ⅰ（第五版）（二〇〇三年）
- 「難燃性建造物における複数建物の一体性」平成一四年度重要判例解説（二〇〇三年）
- 「逋脱犯の刑法犯化」日本法学六九巻四号（板倉宏教授古稀記念号）（二〇〇四年）
- 「医療過誤と過失犯論の役割」『現代社会型犯罪の諸問題』（二〇〇四年）
- 「胎児性傷害」川端編『刑法判例演習』（二〇〇四年）
- 「刑法の役割——『刑法の機能』を超えて——」『刑事法学の現代的展開』（斎藤静敬先生古稀祝賀記念）（二〇〇五年）
- 「刑法解釈と権力の抑制——住居侵入罪を手がかりに——」田口他編『犯罪の多角的検討』（渥美東洋先生古稀記念論文集）（二〇〇六年）
- 「いかに法を普及させるか・模擬裁判の可能性」社会科教育研究九八号（二〇〇六年）
- 「法の世界は単色か」桜門論叢六六巻（二〇〇六年）
- 「なぜ法を守らなければならないか」『現代日本の法と政治』（粕谷進先生古稀記念）（二〇〇七年）
- 「北大電気メス事件」医事法判例百選（二〇〇六年）
- 「財物の意義」刑法の争点（二〇〇七年）
- 「監督過失（1）——白石中央病院事件」刑法判例百選Ⅰ総論（第六版）（二〇〇八年）
- 「財産上の損害（1）」刑法判例百選Ⅰ各論（第六版）（二〇〇八年）
- 「あなたも裁判員」桜門春秋一一六号（二〇〇八年）

- 「裁判員制度と刑事司法の近代化」政経研究四六卷二号（二〇〇九年）
- 「裁判員裁判と死刑廃止の展望」下村他編『刑事法学の新展開』（八木國之博士追悼論文集）（二〇〇九年）
- 「自動車犯罪立法の未整備と罪刑法定主義」日本法学七六卷四号（沼野輝彦教授古稀記念号）（二〇一一年）
- 「自動車犯罪立法の展望——許されない危険——を見通して」法学論文集（韓国・中央大学校）三五卷三号（二〇一一年）
- 「更生をめざす刑罰——市民参加の時代を迎えて——」町野他編『刑法・刑事政策と福祉』（岩井宜子先生古稀祝賀論文集）（二〇一一年）
- 「強要による聴取書問題」月刊民商五四卷六号（二〇一二年）
- 「納税者の権利」の憲法論的位置付け』『納税者権利論の課題』（北野弘久先生追悼論集）（二〇一二年）
- 「脱線転覆事故における安全対策責任者の過失・尼崎JR脱線事故」日本法学七八卷一号（二〇一二年）
- 「虚偽公文書作成罪の再構成」日本大学法科大学院法務研究九号（二〇一二年）
- 「希望がなければ刑罰とはいえない」政経研究四九卷四号（二〇一三年）
- 「座談会 司法は生きていた…3・11に真摯に向き合った福井地裁判決（平成26・5・21）」世界八五八号（二〇一四年）
- 「過失犯における回避措置重心説」井田他編『川端博先生古稀記念論文集（上巻）』（二〇一四年）
- 「期待可能性」刑法判例百選Ⅰ総論（第七版）（二〇一四年）
- 「権力が守る犯罪」政経研究五二卷二号（二〇一五年）

## 【判例研究】

- 「丸正名誉毀損事件上告審決定（最決昭和51・3・23）」日本法学四二卷二号（一九七七年）
- 「揮発油税法、地方道路税法にいう揮発油の製造の意義—いわゆるブレンドガソリン事件（最決昭和53・2・20）」判例時報九二二号（一九七九年）
- 「運転免許証の不正再受給について（最決昭和53・11・24）」警察研究五一卷二号（一九八〇年）
- 「鳥獣保護法—一条の「捕獲」の意義（最決昭和54・7・31）」警察研究五二卷二号（一九八一年）
- 「産業廃棄物処理法の「もっぱら再生利用の目的となる産業廃棄物」の意義（最決昭和56・1・27）」警察研究五四卷一号
- 「大麻取締法一条の「大麻草（カンナビス、サテイバ、エル）」の意義（最決昭和57・9・17）」警察研究五五卷五号（一九八四年）
- 「法人税法159条1項、164条1項の「その他の従業者」の意義（最決昭和58・3・11）」警察研究五五卷一一号（一九八四年）
- 「地方公共団体の長の解職投票と公職選挙法の買収罪の準用（最決昭和59・4・20）」警察研究五七卷八号（一九八六年）
- 「売春防止法13条1項の「情を知って」の意義（最決昭和61・10・1）」警察研究五九卷九号（一九八八年）
- 「ホテル火災と経営者の業務上過失責任（川治プリンスホテル事件）（最決平成2・11・16）」警察研究六三卷一〇号（一九九二年）

「正当防衛の共同と侵害終了後の共謀（最高裁判決平成6・12・6）」判例時報一五六一号（一九九六年）

「雪崩事故と過失責任―ニセコアンヌプリ「春の滝」雪崩遭難事件（札幌地小樽支判平成12・3・21）」判例時報

一七四六号（二〇〇一年）

「嫌がらせ電話によりPTSDを負わせ、傷害罪が認められた事例―富山地判平13・4・19判タ1081・291」現代刑事法五号（二〇〇二年）

「他人占有物の領得に関する事例」日本法学七一巻二号（二〇〇五年）

「自動車引きずり殺人事件（長野地裁平成24・10・19判決）」日本大学法科大学院法務研究一〇号（二〇一三年）

「脱線転覆事故と安全対策責任者の過失」『現代の判例と刑法理論の展開』（八千代出版、二〇一四年）

「柔道指導における過失責任（長野地裁平成26・4・30判決）」日本法学八〇巻四号（二〇一五年）